

神奈川山梨教会連合会報

かりん

一生が修行中

木本田鶴子先生は、昭和二十二年に静岡県
の富士宮教会に、五人兄弟の四番目の子
供としてお生まれになりました。

昭和四十八年六月に教師を拝命され、十
月に金光教学院で知り合った木本先生とご
結婚。三人のお子さんを頂かれました。

☆金光教の先生になられたきっかけなど、
ありましたか。

私は教会で生まれ育つ中で、熱心な信者
さんが不治の病に罹り、亡くなっていくこ
とに幼心に疑問をもっていました。「信心
しているのに、どうして……？」と。信心し
ていれば病で苦しむ事はないと信じていた
のです。学校を卒業してから、社会に出て
働いていましたが、「心の安定」を求め、
七年目で退職し、金光教学院に入らせて頂
いたのです。何処で御用するのも御用する
ことに変わりはないと、後継者の居なくな
るのを承知で、父は横須賀教会へ嫁ぐこと
を承知してくれました。

☆横須賀教会に嫁がれてから、御用に育児
に家事にと、大変そうですね。

教会には、様々な問題が持ち込まれま
す。助けるのは私ではありません。助かっ
て欲しいと必死に願ひ祈ることは当然のこ
とながら、願ひ通りにな
らない時は、人間心が働
いて、悩み苦しみ、日常
生活に不都合ができてま
した。

川でスベって山でコロんで……とってきました

Interview

第10回 木本 田鶴子 先生 (横須賀教会)



☆大変でしたね。

家族中で支えてくれま
した。子供達がそれぞれ
料理に興味を持ち、作る
ようになりました。

「お母さんは苦しかったかもしれないけど、
それで子供達が料理が出来るようになった
し、良かったこともあるんだよ。お母さん
が居てくれることは大きな力なんだ」と、
息子は励ましてくれました。

「病気で苦しかったこと、おかげを頂いて

嬉しかったこと、それを忘れずにいれば……
」とのみ教えを支えに御用をさせて頂いて
います。

☆先生はご実家の教会(富士宮教会)でも、
御用に立たれているとか。

実父(富士宮教会長)が地域社会への布教
を願ひとして、三十年近く続けてきた大和
神社の祭典や、富岳館高等学校(畜産)の畜
魂慰霊祭を受け継いで、今まで十年程させ
て頂いています。高校では、短時間ではあり
ますが、お道の話を見せて頂き、年々校長
先生を始め役員。生徒の参拝者が増えてき
ていることは、有り難く嬉しいことです。

横須賀教会百年を三年後に控え、布教
をスローガンに掲げ、実践目標は『信心即
生活 生活即信心』『祈り合い 育ち合い』
『人が助かる教会へ』『人が育つ教会へ』を
基に取り組んできています。何が必要で、
何が不必要なのかを見極め、改めるべきと
ころは改め、喜び事、悲しみ事が様々に織
りなす日常生活の中で、何に迷わず、動き
をつけて、末々までの立ち行きを楽しみ
に、軌道修正しつつ取り組んでいる日々で
す。

☆有り難うございました。

(今村則子)

教会連合会の新たな働き

「見えているが誰もが見ていないものを見るようにする」のが詩である。ある詩人の見事な定義付けです。この定義は、宗教にも当てはまるのではないのでしょうか。

スーパーパーには、肉・野菜・魚などが花のように、短冊のように色とりどりに元の姿は想像もつかぬほどに綺麗に調理され包装されています。私達は、肉を野菜を魚を触っているつもりですが、実はサララップの感触であることに気付いているのでしょうか。私達が生きるといふことは、他の生命を頂いて生きていくという感覚は薄れるばかりです。食べ物ばかりではありません。過って家庭で処理されていた、生まれるという事、死という事も、今では全て外部のサービス機関で処理されます。生きる死ぬと言ふ事は、壮絶な事ではありませんが、その苦しみなどは、知る事はありません。近代化と言ふことでしょうが、人間にとっての、現実生活の根源の感覚の一番根っ子にある「触覚」というものに大きな変化を起している事は確かです。

今日、生きるという事、死という事を根本的に考えるという事は至上に難しいことですが、我々は考えないわけにはいきません。何故なら、時代そのものが大きな変換期にあって新たな思考が求められています。

す。いわゆる子供の時から一緒に育ち共に生活してゆく社会、共同体というものは無くなりつつあります。地域でも、お互い知らない者同士が共に生活してゆく新しいルールが必要とされています。知らない者同士が助け合い力を合わせて生きてゆく社会に変わりつつあるのです。「その人の言葉の背後に真実がある」なんて言うことは通じません。理解されません。

生まれも育ちも全然違う人々が共に生活する時、何を伝え、何を要求しているかということを感情的には無く、きちんと論理的に吟味して、伝えるべきは伝える。そうした言葉の文化を意識的に作っていくかは成らないのでしょうか。これは、親子の間でも同様です。

そうした新しい関係のルールを作る上で大切なことは、「わからない事は、わからない」と受け取る感覚です。「わからない事をわかる」ということで歪めてはならないのです。そうしたとき、一人の考えは危ういものです。一人で考える事は大変な事です。一人の考えでは大きな過ちを重ねてしまいがちです。

今、宗教的考え方や物の見方を身に付けるために、金光大神様の世界の見方。自分と言う者の見方を連合会の中で共に学べたら素晴らしい事でありませう。

(金光教小田原教会長 宮川 宣信)

子どもたちは、今

以前に親しくしていた方と久々に会っていろいろなことが思い起こされた。あの頃は、よくお茶を飲みながらお喋りをした。おかずをあげたりもしたりもしたし一緒に買い物にも行った。近所の人たちと縁日にも出掛けたり、プールなどにも行った。夏休みに入ると、総出で地域にある公園の清掃をした。盆踊りや金魚すくいなどをした。おみこしも作って町内を練り歩いた。そんな暮しのなかで子どもたちも生き生きとしていて楽しかった。

また、「隣りのお兄ちゃんたちのようにしよう」と言って、髪を洗うのも何の抵抗もなく、赤ちゃん洗いやシャワー洗いに変わったし、歯ブラシに歯みがき粉をつけるようにもなった。このように、子育ても自然に運んでいったように思う。遊びにしても、この頃のように、親がつきっきりだったり、あれこれ口出しすることもあまりなかった。

学校でも、ついこの間まで、冬になるとこま回しに熱中する子どもたちの姿が見られたが、それもあつという間になくなり、今では何処にもそんな子どもたちは見られない。学校でいくら伝えようとしても地域の力には及ばないのだ。世の中の変化をひしひしと感じさせられるひとこまだ。

教会連合会だより

◎神奈川県宗教連盟

六十周年記念行事開催される

三月三十日(水)午後二時から三時まで、鶴岡八幡宮にて世界平和祈願祭。午後四時から鶴ヶ岡会館にて記念式典・祝賀会が行われ、当連合会より福田俊雄理事、須賀院明德連合会長、横山光雄副連合会長、福田光一副連合会長、吉田章一郎副連合会長が出席いたしました。

尚、各教会より二千円の分担金を頂きました。

◎教師部会

二月十四日(月)、神奈川教会で(出席者 宮川宜信、南 清孝、須賀院明德、福田俊雄、奥川達雄、木本紀義、鈴木重光、山田尚子、菅原ミノリ、福田光一、横山光雄、村田光治、川込光貴) 十二名が出席して開催されました。

教師部会としては、今日の社会問題を始め、さまざまな問題が山積する中で、信仰のプロとしてリーダーとして、どう捕らえて行くのか。例えば、天地金乃神と天地自然とか、災害との関係とか、道徳との違いとか、家庭と家庭内暴力・家族、夫婦など、今までは自分の信念から捕らえる見方が多かったが、根本的な処へ迫る問題を取り扱ってはどうかと思われれます。

第一回目は、四月十四日野毛教会で木本紀義先生が「家族」について発表されます。

△予告△

愛媛県道後温泉の旅

平成十七年十月一日(土)・二日(日)・三日(月)

【観光コース】

一日(土)

東 京発 九時三十六分 ひかり三六七号

新横浜発 九時五十三分

金 光着 十四時三十七分

各教会ごとに宿泊

二日(日)

【生神金光大神大祭】参拜
昼十二時頃 金光く大三島・

大山祇神社くしまなみ街道く

道後温泉「ホテル古湧園」泊

三日(月)

道後温泉く内子く伊予かすり会館

く海産物センターく松山城く松山

空港く羽田空港(JAL四七〇便)
十九時二十分着予定

経費は、教会にお尋ね下さい。

【直帰コース】

二日(日) 往路は観光コースと同一

金光発 十二時二十五分

岡山発 十三時三十三分 ひかり三七六号

新横浜着 十七時二十六分

東 京着 十七時四十三分

金光教首都圏フォーラム
金光教首都圏参拝団

私どもの孫が五歳になる頃、補助なしの自転車に挑戦させようとしたが、なかなかうまくいかなかったと言う。そんなある時、公園で補助なし自転車でスイスイ乗っている子を見て、その場で乗れるようになっていたと言うのだ。そんな話を聞くにつけ、今、子どもたちの置かれている状況が気になって仕方がない。

あれは、息子が三・四年生の頃だったと思う。時間の都合のつく子どもたちが空地に集まって、自分たちで野球チームを作りよく遊んでいた。「今日は監督になった」とか、「今日は審判をした」という話をよくしてくれた。チームに入っているプレーと違って子どもたちだけで遊ぶ。そこで得られたものは大きかったのではないだろうか。私が教職にいた頃、地域で子どもたちが群がることなく、学校や幼稚園保育園はますます大切な場所になってくると言い続けてきた。その学校も、池田小の事件で一挙に様変わりし、奈良や寝屋川の事件で一層きびしくなった。これらの事件も、世の中の変化のなかで起きてきているように思えて、胸が痛む。

複雑な世の中で生きていくためには、今以上のたくましさが必要だと感じる。今、自分に出来ることかと思うのだが……。

(鎌倉教会 吉岡 裕子)

神奈川山梨教会連合会
天地金乃神大祭日程

| | | |
|--------|----------|--------|
| 津久井教会 | 4月16日(土) | 13時 |
| 小田原教会 | 4月17日(日) | 14時 |
| 横浜西教会 | 4月17日(日) | 13時30分 |
| 甲府教会 | 4月17日(日) | 13時30分 |
| 南甲府教会 | 4月18日(月) | 13時30分 |
| 藤沢教会 | 4月24日(日) | 13時30分 |
| 鎌倉教会 | 4月30日(土) | 13時30分 |
| 登戸教会 | 4月24日(日) | 13時 |
| 大明教会 | 4月28日(木) | 13時30分 |
| 川崎教会 | 4月29日(金) | 13時 |
| 横須賀教会 | 5月3日(金) | 13時30分 |
| 丸子教会 | 5月3日(金) | 13時 |
| 相模原教会 | 5月3日(金) | 14時 |
| 生麦教会 | 5月5日(日) | 13時 |
| 平塚教会 | 5月7日(火) | 13時 |
| 子安教会 | 5月7日(火) | 13時30分 |
| 鶴見教会 | 5月11日(水) | 13時 |
| 野毛教会 | 5月14日(土) | 13時30分 |
| 大磯教会 | 5月14日(土) | 13時 |
| 神奈川教会 | 5月21日(土) | 13時30分 |
| 武蔵小杉教会 | 5月22日(日) | 11時 |

お知らせ

女性のつどい

— 押し花で手作りはがきを作ろう —

▼日時 平成17年(2005年) 7月4日(月) 13時から16時

▼会場 金光教鎌倉教会

▼講師 吉岡 裕子氏

(鎌倉教会 信徒)
 (日本レミコ押し花学院講師)

▼持ち物 ピンセット(押し花、はがき等
 はこちらで用意します)

▼参加費 無料

▼申込み 各教会に送付します用紙で、
 6月28日迄に、お願いします。

詳しくは、教会に送付するポスター・ちらしをご覧ください。(5月中旬に配布予定)

教師・信徒懇談会開催

▼日時 平成十七年七月十八日(金)

午前十時〜午後三時三十分

▼会場 かながわ県民センター
 (横浜駅西口より徒歩五分)

▼テーマ 金光教の活性化

▼プログラム

- 一、基調報告(金光教を考える会の討議内容)
- 二、意見発表

①教会における信徒の役割と連合会活動

②魅力ある教師像

三、全体討論

〈な・が・れ〉

中越「元氣」村

子安教会 村田 光治

一月中旬、中越地震被災者支援ボランティアに私も行かせてもらいました。現地の小千谷市では「中越元氣村」に、籍を置き、滞在した三日間の作業は全て雪下ろしでした。

元氣村は、「メンバーは流動的、登録も特にしない。各自の自主性において成り立つ旅人のようなグループ」と、ある雑誌に書いてあったとおり、いい意味でアウトなグループでした。

慣れたメンバーは、作業中でも休憩中でも様々な話をその家の人とします。その話の中から次の活動につながるものを見つけ出していくのです。例えば、「わらじ作り」「どぶろく作り」など。

そこには、被災者自身が、「自分も役に立てる」という思いを持つこと、そして更には「私らは被災者だ」というマイナスの思いを被災者自らで拭い取れることとなること、そんな元氣を作っていく、元氣村の活動の原動力が、そこにあるように感じました。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 須賀院 明德

編集責任者 横山 光雄

川崎市中原区小杉御殿町二一八二

〒211-0088 金光教武蔵小杉教会内